

中学校第1学年美術科学習指導案

1、単元名

生活世界をデザインとしてトリミング～自作のフレームを通して撮影し、鑑賞し合おう～

教材：B 鑑賞「自然界や身の回りにある形や色」（日本文教出版1年）

2、単元の目標

（1）美術科としての目標

- 自分のデザインしたフレームを通して身の回りの生活世界をトリミングし、デザインの一部分に見立てる活動を通し、何気ない美を再発見することで、美への感度を上げることができる。
- 協働的な学びで、相互に刺激し合いながらより高い意識への変容や、鑑賞を通し互いの視点の良さに気づくことができる。

（2）汎用的スキル

- 見過ごしがちな生活世界の美を再発見し、美への感度を上げることで、美に気づくチャンネルを獲得することができる。（感性・表現・創造の力）

（3）態度・価値

- 協働作業によって導かれる作品や、鑑賞における議論を通して、思いの共有や受容、批判意識、コミュニケーション能力を伸長することができる。（協力しあう心）

3、生徒の実態

中学1年生は、集団との関わりの中で自分とは何かを意識し、その中で自分らしさを追求しはじめる頃であり、運動会や文化祭等の行事、部活動や委員会等の活動を通じ、中学生としての意識へ移行する段階である。それとともに自我の目覚めや論理的思考力が発達し始める頃とも言え、大人への一歩を踏み出す、人生にとっても重要な転機へとつながる道への入り口の時期とも言える。上級生の活躍ぶりから影響を受け、あこがれを抱き、いつかは自分たちもあんな風になりたいと考える一方で、現実との折り合いがつかず、葛藤や思い悩みと不安の交錯する疾風怒濤の時期への入り口に差し掛かる頃でもあり、遊び心を刺激しながら、新たな視点を得る課題が有効となる。

4、単元について

①教科から見た特性

小さい頃は自由に描画表現をするが、成長とともに苦手意識をもつようになってくる状況を、ローウェンフェルドは、「思春期の危機」と表現して警鐘を鳴らした。本単元は、「こんな〇〇があったら」と各々が考えるワンピース、ネクタイ、マグカップ等、デザインされるべき中の部分は切り抜かれた窓になっているフレームを作成する。その窓を通して、生活世界を見直し、デザインとなりうる美を探しトリミングし、撮影し互いに鑑賞し批評し合う活動となる。デザインの素材になりそうな美を生活世界から探す鑑賞活動であり、自作のフレームを通し、効果的な構図を考えてトリミングし、撮影をする表現活動でもある。本教材は、「思春期の危機」への対応に加え、「美への感度」を上げることで、見過ごしがちな生活世界の美への認識について発表し鑑賞し合い、見過ごされがちな美に気づくチャンネルの獲得を目指しており、生活世界の美の見え方の変容を視野に入れている。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

日本古来に見られる自然を「愛でる」文化の根底にある、美への感度を上げ、見過ごしがちな美に気づくチャンネルの獲得による感性・表現・創造の力の育成や、グループ活動による撮影や協働作業、また互いの作品の鑑賞を通して、協力しあう心を養う。

5、単元計画と資質・能力を育成する主な手立て（全5時間 本時Ⅲ3／4時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (3時間)	・世界をトリミングするためのフレームのアイデアスケッチ及びフレーム制作。 ・班別に、フレームを通して生活世界をトリミングし、協働的に撮影を行う。	○感性・表現・創造の力 ○協働する力 ○協力し合う心 ○好奇心・探求心	○生活世界をデザインとしてトリミングするという遊び心への刺激 ○班による協働作業による撮影の場の設定 ○相互に刺激し合いながら、主体的な活動へと導く教材内容
第2次 (1時間)	・画像にタイトルをつけ、切り取った視点や意図のコメントを記述する。 ・個々の作品を鑑賞し合い互いに批評する。 ・班からプレゼンを行い全体で鑑賞し、自己の振り返りを行う。	○伝える力 ○批判的思考力 ○他者に対する受容・共感・敬意	○自分の視点や価値観を振り返る場の設定 ○多様な価値観や視点を認め合う場の設定 ○他者との学び合いの設定

6、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・フレームを通して、デザイナーの視点で生活世界の美を見つけ出し、トリミングしてデザインに見立てることで、美への感度を上げる。
- ・班の仲間とともに撮影活動をすることで、協力する心や協働する力を養う。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・予想される生徒の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 7分	協力し合って、自作のフレームの中のデザインにふさわしい、生活世界の美を見つけだそう！ ○本時の課題を理解する。 ・デザイナーの視点で生活世界の美を見つけ出そうという遊び心を持つ。 ・班の仲間とともに協働的に活動する事の理解。 ○生徒作品例を鑑賞する ・撮影の注意点や撮影イメージをつかむ。	◇遊び心を刺激する活動内容。(好奇心・探求心) ◇班別で活動することで、刺激し合う影響力の効果がみられる撮影画像例の提示。(協働する力、協力し合う心) ◇撮影の注意点やカメラの使い方を理解する。光の意識やピント／息を止めてシャッターを自分で切る／フレームは仲間に持ってもらう等。(先を見通す力)
展開 35分	○班ごとに、教室や校舎の外に出て、フレームを通した生活世界をトリミングし、協働的に撮影活動を行う。 ・協働的に刺激し合いながら撮影をする。 ・表現意図をもって生活世界をトリミングし、シャッターを切る。 ・仲間の作品や視点、美の発見に刺激を受けながら、互いの作品の向上につなげていく。 ○自分の発見した美を、自分の表現意図にあう効果的な構図を工夫してトリミングし、撮影する活動の試行錯誤を繰り返す。 ・表現意図をもってシャッターを切るための、仲間への指示をきちんと伝える。 ・試行錯誤を繰り返しながら、より良いデザインへとつなげるためのPDCAサイクルによる撮影をする。 ・撮影した画像を確認しながら、納得のいく構図への探求をする。	◇教室や校舎の外における、遊び心を刺激し合う、班別の協働的な学びの場の設定。(好奇心・探求心) ◆生活世界の美を、主体的に発見しようとしたり、感じようとしているか。(撮影の試行錯誤や様子) ◇仲間とのコミュニケーションを通して、感じ方や見方、表現の幅を広げさせる。(協働する力) ◇相互に、発想や狙い、目のつけどころ、視点などから刺激をし合いながら高め合わせる。良い点を真似るところから入り、自分の表現へと発展させていく方法もあることをアドバイスする。(他者に対する受容・共感・敬意) ◆シャッターを切るに至る自分の表現意図に基づく意思決定をしているか。(撮影の試行錯誤や様子、撮影後のワークシートやプレゼン内容) ◇撮影に至るドキュメンテーションのための録音をさせることで、他者との関わり合いの中でこそ生まれてくる表現があることの気づきに導く。(他者に対する受容・共感・敬意)
結末 8分	○撮影した画像を鑑賞しあい、振り返りを行う。 ・互いの良さや認め合い、互いに高め合うアドバイスをする。 ○学習活動の振り返りをワークシートに書く。 ・作品画像や、仲間の意見を参考に、活動の流れや自分の学びを客観的に振り返る。 ・フレームを通してトリミングすることで、生活世界の見え方や印象が変わる新鮮さに気づく。	◇画像を鑑賞し合い、互いに良いところを見つけさせ、学習感想を書くように伝える。(振り返る場の設定：他者に対する受容・共感・敬意) ◇狙いや撮影の意図を言葉で表現させる(伝える力) ◆考えを深めたり、広げたり、美への感度の高まり、新たな視点への気づきが得られているか。(発言・ワークシート)

●記録映像 無し